

お お は い ズ ん

Contents

- 巻頭言
- 開催報告
- 運転と作業療法委員会ご紹介
- 専門部コラム
- 施設紹介
- 季節のたより／おすすめ図書
- 「わたしが元気になれること」／季節を感じるモノ
- お知らせ
- ジャスミンのちょっと一言いいかしら／編集後記

12

2023

巻頭言



一般社団法人
島根県作業療法士会
会長 小林 央

私たちにできること

長女の小学校入学式を明後日に控え、家族が寝静まった深夜に遠くから迫るように聞こえた地鳴りとともに大きな揺れを感じた。咄嗟に寝ている子どもたちに覆い被さり、しばし揺れが収まるのを待った。その後、大きな揺れは繰り返し訪れ、家族の無事を確認したのち、職場へ車を走らせたのは午前三時過ぎであったと記憶している。平成三十年四月九日午前

一時三十二分島根県西部地震により大田市では震度五強を記録した。東日本大震災（平成二十三年）・熊本地震（平成二十八年）と大きな自然災害を目の当たりにしてもなお、我が事として捉えることができている。なかつた自分に不甲斐なさを感じた。

そんな思いを払拭するべくその年、六月にはJIMTEF災害医療研修会ベーシックコースを受講しその基礎を学んだ。八月には（一社）日本作業療法士協会より西日本豪雨災害のJ R A T本部ロジスティック要員として参画させていただいた。十一月にはJIMTEF災害医療研修アドバンスコースを履修するとともに（一社）日本作業療法士協会災害ボランティア登録・研修を受講した。

近年、自然の猛威を肌身に感じるが増えたように思う。県内では、島根J R A T（災害

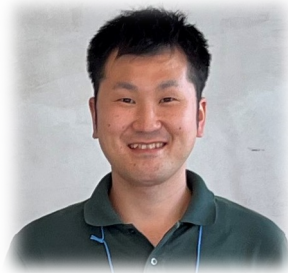
リハビリテーション支援協会）の活動もスタートしている。今年度組織再編した、しまねリハビリテーションネットワークでは減災推進委員会を設置している。本会においてもJIMTEF災害医療研修受講費用を一部助成する取り組みを予算化し、会員が災害を自らの周りにも起こりうる事として捉え、その役割を担えるよう支援を計画している。

災害はいつ起こるかかわからない。災害時にどのような支援体制が整備されるのか、私たちの職域にどんな支援が期待されるのか、知っておくだけでも大きな備えとなる。

島根県作業療法士災害対策委員会では一緒に学ぶ仲間を募集しています。お問い合わせは事務局まで一報ください。

開催報告

多職種連携による BPSDの対応を 学ぶ研修会



認知症の作業療法委員会
委員長 種 宏樹

二〇二三年十月二十九日、広島国際大学の太井博司先生をお招きして、多職種連携によるBPSDの対応を学ぶ研修会を開催いたしました。参加者はOTのみでなく、PT、保健師、生活相談員、ヘルパーの方に参加していただきました。

本研修会は、認知症ケアの関わり方の基本として個人技ではなく、多職種でのチームとしての関りが必要であることを共有したうえで、他職種の方を交え様々な立場での意見交換を行いました。関わり方のポイントとして、対象者の気持ちを受け止めながら、環境調整、コミュニケーションの取り方、身体的ケア、活動の支援、他者との関係性について丁寧な振り返り、考えていくことの必要性を改めて学びました。演習として、ノンバーバルでの意思表示の行い方に取り組み、普段の対象者との関わり方について振り返る良い機会になりました。

研修会を通して、多職種での意見交換を行うことで、各職種の認知症のある方への対応の際の視点の違いを感じることで、チームとしてどのような連携していく必要があるのか考えるきっかけになったと思います。グループワーク形式については、参加者の満足度が高かったです。今後も講義形式で学ぶだけでなく、グループで意見交換する場を積極的に設けていくことで、他職種への作業療法士の視点の啓発にもなると感じ、有益な研修会の開催方法ではないかと思われました。

会員のため
作業療法普及講習会を運営しています

実習生のため
啓発のための講習会を運営しています



研修会の様子



開催報告

今年、一般社団法人島根県作業療法士会が40周年を迎えることもあり、『40周年記念特別展 作業療法フェスタ2023』として、例年のフェスタに新たな企画を加えて開催しました。

東部会場では、9月24日（日）～28日（木）の5日間“ゆめタウン出雲”にて開催し1,182名、西部会場では、10月22日に“キヌヤ益田ショッピングセンター”にて開催し、203名の方々に来場していただきました。

内容としては、作品展示・作品投票・養成校ブース・動画上映・作業療法タペストリーなど様々な展示・企画を行いました。特別企画として来場された皆さんへ、ガチャガチャによる記念品贈呈を行いました。作業療法フェスタ恒例企画である『作品展示』では、東部は151作品（22施設）、西部は61作品（8施設）の作品が集まり、展示させていただきました。来場者からは、どのような方が作業療法の対象となるかを尋ねられたり、作り方に興味関心を持たれる方も多かったように思います。当事者の方から来場者に説明して下さる姿もありました。『ガチャガチャによる記念品贈呈』では、ガチャガチャにて4種類の記念品（トートバッグ、コースター（四角・マル）、花の種）の中から来場者へプレゼントしました。

「ありがとう」「元気をもらった」と会場を後にされる来場者の声を聞き、スタッフの私たちも沢山の元気をいただきました。今年、東部会場では平日の開催も試みて、例年以上の来場がありました。より多くの方々へ作業療法を伝える機会が増えるよう今後の開催方法についても部のメンバーとアイデアを出し合い工夫しながら、よりよい作業療法フェスタを企画していきたいと思っています。

『40周年記念特別展 作業療法フェスタ2023』開催にあたりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



運転と 作業療法委員会 ご紹介



運転教室の様子



出雲市民リハビリテーション病院
田中 良佳
(運転と作業療法委員会 委員長)

当委員会は、島根県東部から西部に所属している作業療法士十二名で活動しています。二〇一七年度より島根県作業療法士会特設委員会の運営と作業療法委員会として設立され、活動を開始しました。主な活動内容は、会の開催、研修会の企画・運営を行っています。

近年は、学校法人島根自動車学園出雲自動車学校の足立康宜教習指導課長、医療法人畏敬会井野辺病院リハビリテーション部部長作業療法士、加藤貴志先生をお招きし、足立先生には自動車運転支援における教習所との連携について、加藤先生には自動車運転支援に関する認知機能についてご教授いただきました。

また、島根県高次脳機能障害者支援事業において、作業療法士が行う自動車運転支援についての報告や基礎的知識について講師を務めたり、昨年度からは浜田市社会福祉協議会から健康高齢者を対象とした自動車運転寿命延伸についての研修依頼をいただき、当委員会の益

田地域医療センター医師会病院の平木さんが、講師を務めました。この講習会では認知症やフレイルチェック、運転体操、認知・身体機能と自動車運転操作の関係についてお話をさせていただき、大変好評だったと感想をいただきました。二〇二三年六月には、島根県指定自動車教習所協会技能検定員向けの法定講習にて高次脳機能障がい者への運転支援の取り組みについてお話をさせていただきました。

十二月二日には日本作業療法士協会運転と地域移動に関する都道府県協力者会議にて島根県の取り組みを報告させていただきます。

運動と作業療法委員会では、病気や障害をもった方々の移動支援が充実するよう活動を継続してまいります！

出雲自動車学校 全国指定自動車教習所協会連合会 会長賞受賞

二〇二三年十一月十四日に東京で全国指定自動車教習所協会連合会全国大会が開催され、学校法人島根自動車学園 出雲自動車学校が全国指定自動車教習所協会連合会 会長賞教習功労賞を受賞されました！

出雲自動車学校は、高次脳機能障害者の運転再開に積極的な支援を行われており、実車評価に関する基本要領等のマニュアルの作成、技能検定員を対象とした校内説明会を開催されるなど、指導員の育成に熱心に取り組み、これらの功績がこの度の受賞となりました。

教習指導課長の足立康宜先生をはじめとした出雲自動車学校と、エスポール出雲クリニック、島根大学医学部附属病院、出雲市民リハビリテーション病院は、二〇二〇年三月から高次脳機能障害者の自動車運転再開支援のための連携を開始しております。

出雲自動車学校には多くの高次脳機能障害者の実車評価を受け入れておられます。医療機関から対象者の実車評価を依頼する際は、対象者の運転操作に影響のある症状や病前運転状況等を記す情報提供書*、実車評価後の転帰について記す自動車運転支援報告書を、足立先生とともに作成し運用しています。また、出雲圏域以外からの実車評価依頼にも応じていただくこともあり、障がい者等の社会復帰支援に多くのご協力をいただいています。通常教習でお忙しい中、高次脳機能障害者の運転支援にご協力いただき、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

*岡山リハビリテーション病院、新潟リハビリテーション病院、全日本指定自動車教習所協会連合会の許諾を得て運用しています。

(写真左)

エスポール出雲クリニック

西村 翔平 氏

(写真中央)

学校法人 島根自動車学園

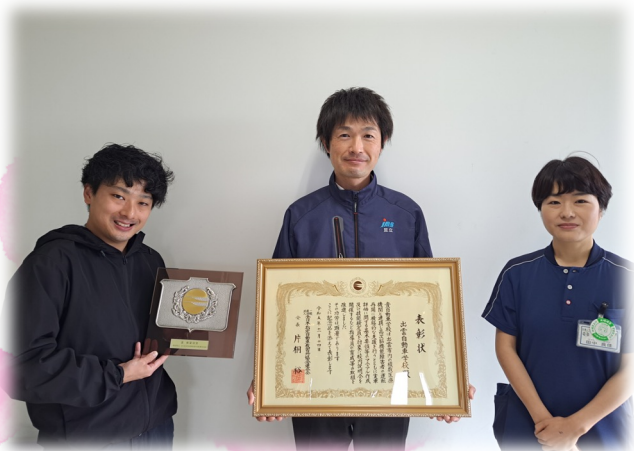
出雲自動車学校 教習指導課 課長

足立 康宜 先生

(写真右)

筆者

田中 良佳



専門部 コラム

福祉用具
手 - 1

山崎 敦広

生活行為工夫 情報事業

全国の作業療法士（以下OT）の生活環境の工夫や自助具作成についての知恵を覗いてみませんか？

この度、我々鳥根県作業療法士会でも参画した日本作業療法士協会（以下、協会）の生活行為工夫情報事業では、OTが持つノウハウを集約し、当事者や関係職種が活用できるデータベースの構築を図り、住民自ら生活行為の課題解決に向けた取り組みができることを目指す新規事業となっています。

このように感じた経験はありませんか？

- ・対象者が自らの生活改善の可能性に気付かず、受け身の生活になっっている
- ・対象者の持つ能力が十分に発揮されておらず、生活機能の低下を招いている

- ・ケアマネジメントでも対象者の能力が十分検討されておらず、有用なプランが提供されていない
- ・経験がなく、生活行為支援の具体的な方法が分からない

地域包括ケアシステムを持続的な社会保障サービスを提供するためには対象者自身が「自分でできることは自分でするよう支援すること」が大切であると協会では考えています。しかし現状は対象者自身が生活改善の可能性に気づかず受け身の生活になり、ケアマネジメントにおいても対象者の能力に対し予後予測が十分に検討されず「お世話型」サービスになっている傾向にあると思われます。その中で我々OTは対象者一人ひとりの生活全般を捉えた支援、いわゆる「生活行為マネジメント」を行うことを得意とする職種と考えています。

我々OTは日々生活行為に支障がある対象者に対し、『動作・方法の工夫支援』、『福祉用具、自助具などの用具による支援』、『住宅改修などの環境に対する評価や支援』を行っています。

その中でこの事業では用具の支援に着目しています。福祉用具については先に「福祉用具相談支援システム」を構築しているもので、今回は自助具に焦点を向けたシステムの構築を目指したもので、我々が日々の臨床の中で用具に対し配慮した点や実際改良を加えた点などについて情報を集約しいつでもシステム上で検索できるように見解を広げる一助になるよう務めることを目的としています。

まずは福祉用具相談システムへの登録からご協力お願いします。

福祉用具相談
支援システム
についてはこちら



(社)日本作業療法士協会
生活環境支援推進室
生活行為工夫情報事業
～生活行為の工夫や自助具作成の集大成～
ひらめきをシェアしませんか？
自助具の作成ってどうしたら
よいかな？
自助具作成に欠かせない成功、失敗事例を
共有するサイトです。
全国の作業療法士で経験やノウハウを
ひらめきの引き出しを届けましょう。
assist.tech.shimaneot@gmail.com
自助具システム登録
をお助けします。
(システム登録方法)

ひかわ医療生活協同組合

施設紹介

介護老人保健施設もくもくさんからご紹介いただきました「ひかわ医療生活協同組合」です。当組合は斐川生協病院・訪問リハビリ・デイサービス・看護小規模多機能事業所等複数の事業所を有しています。「誰もが健やかに安心して暮らし続けられるまちづくりをすすめます」を理念に日々、利用者様と関わっています。



特色としては、病院の他に「サービス付き高齢者向け住宅」、「住宅型有料老人ホーム」、定期巡回（ヘルパーサービス）、看護小規模多機能事業所も在るので状態が変わっても安心して暮らしていただけるようになっています。また、デイサービスや看護小規模多機能事業所では機能訓練指導員として、リハビリスタッフが多く従事するようになり、日常生活動作等の評価や運動指導、個別機能訓練での関わりを行っています。それぞれ専門職として試行錯誤しながら仕事に携わっており、話し合いや相談をしながら日々奮闘しています。



これからも、医療・介護の多様なニーズに対応していけるように仲間と切磋琢磨していきたいと思えます。

次は、**仁多福社会就労継続支援B型事業所けやきの郷** さんにバトンタッチいたします。よろしくお願ひします。

介護老人保健施設 ケアセンターかんど

海星病院さんからご紹介いただきました、介護老人保健施設ケアセンターかんどです。当施設では入所・ショートステイ・通所があり、作業療法士8名（2名育休中）、理学療法士1名、言語聴覚士1名（兼務）が勤務しています。

当施設はハキハキした職員や経験豊富な職員など様々で、賑やかにリハビリを実施しています。ご自宅での生活に寄り添った支援が出来るように多職種との連携や自宅訪問などに力を注いでいます。ご利用者様が元気に過ごされるところも嬉しくなりますね。



当施設は花の郷が近くにあり、毎年5月には鯉のぼりが見えます。以前は出かけて花見やお弁当を食べたりもしましたので、再開できるのが待ち遠しいです。



次は、**クリニックかんど** さんにバトンタッチいたします。よろしくお願ひします。

暑い夏が終わり、やっと秋が深まる時期になってきました。皆様はいかがお過ごしですか？私は『今年の猛暑もなんとか乗り切った、でも急に寒くなってきたから冬支度しなきゃ！』という具合です。

我が家には渋柿の木があり、毎年実を付けてくれています。今年もまげに生りました。頃合いになりこの間家族で柿取りをしましたよ。枝切りバサミを使って高い所を取るのですが、手を上に挙げたまま割と重量のある柿を挟んで下るのが結構な重労働……。手がだるくなるので、後半は高い所から柿を落としてキャッチして取るのが恒例です。若いころから実施しており、今では素手でも取れるようになりました。

収穫した柿たちは合わせ柿と干し柿にしましたよ。合わせ柿は専用のビニール袋にドライアイスを入れて縛っておけば、数日後には食べられます。熟しやすいので早めに食べる事をお勧めします。干し柿は一つずつ皮を剥いで、枝の部分に紐に括りつけます。つけ終わったら沸騰した



お湯の中にくぐらせて、風通しの良い所で干せば準備オッケーです。あとは『天気にお任せ』になります。十一月中旬に二十五度近くまで気温が上がったのはヒヤヒヤしましたが、カビる事もなく無事に干し柿になってくれて一安心でした。今年は人目の多い場所で干したので、カラスに食べられずに済んで良かったです。干し柿は緑茶を飲みながら美味しくいただきました。皆さんは秋の味覚、何を食べられましたか？また教えてください。

おすすめ書籍

社会医療法人正光会 松ヶ丘病院の山本です。私がおすすめする書籍は順天堂大学医学部教授 小林弘幸著「リセットの習慣」（日経ビジネス人文庫）です。

心と体を良い状態に保つためのリセットの考え方やノウハウが99個書かれてあります。どこから読まれても大丈夫ですので、空き時間に開いたページを気軽に読むことができます。

この本は、自律神経を整えることをテーマに書かれてあるように思います。日々の生活で感じる生きづらさが、この本を開くことで少し軽くなるように感じます。

イライラしたり、気持ちが焦っているときほど、ゆっくり丁寧に動いてみる……最近私が、この本からヒントをもらい実践している心身のリセット術の一つです。



Happy

「わたしが元気になれること」



立川純子
益田赤十字病院



毎日仕事場に持っていくウォーターボトルの中に入っているのは、急須で淹れた「煎茶」です。これを業務の合間に一口飲んで元気になります。

二〇年来細々と“煎茶道”を続けています。煎茶は緑茶を入れる点前で、茶葉の種類・量、お湯加減、抽出する時間によって全く違う味になります。「最後の一滴まで」とよく聞くとありますが、凝縮した一滴がさらに色味、香り、深味を引き出し、味わえば凝り固まった体や気持ちさがほぐれます。

茶室や茶器で飲むのとは雰囲気は違いますが、時間に追われ動き回っている合間の一口のお茶は格別です。歳を重ねてもできる楽しみです！



会員から
届きました！

季節を感じる モノ



#秋の深まり

ハッシュタグ#をつけて
写真を送ってください📷



#農作
#ぶどう狩り
#種なし最高
#いちごに行きたい



#大イチョウ
#樹齢推定600年
#歳の差600歳超え



shimahouot@gmail.com

おしらせ



島根県作業療法士会 公式LINEアカウントはじめました！

県士会主催の研修会やイベント情報をスピーディーに発信します

公式スタンプも登場！



第1-4弾のスタンプを配信中！

LINEスタンプ内で「島根県作業療法を検索」と検索！
今後も随時配信予定です。
ご意見ご要望はこちらまで。

kandreha@kandokai.jp



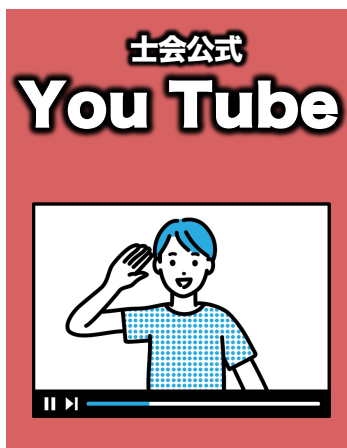
産休/育休/介護休暇を予定されている方へ 士会 休会制度の創設について

＼ 2023年度より利用できます ＼

主に出産や育児、介護、長期の病気療養などを理由に
長期の休職や退職をされた会員への支援として創設しました。

ぜひ有効にご活用ください！

詳細は
こちら



島根県作業療法士会 YouTube やってます！

第一弾は事業部で行う作業療法フェスタの動画です。
人に寄り添い、作業に寄り添い、心あたたまる動画です。
右のQRコードから、ぜひご視聴ください！

▶ チャンネル登録



詳細は
こちら



チャンネル登録をよろしくお願ひします！

ジャスミンの ちょっと一言いいかしら

皆様こんにちは。
ご無沙汰しておりますジャスミンよ。

いきなりですが、我ながら食への執着はすさまじく、パン探しは止まりません。単にパンといってもハード系とか全粒粉とかそんな意識高いものではありません。ずばり町のパン屋さんよ。近所の方々に愛されるような、昔ながらのパン屋さん。店内に入った瞬間のノスタルジックな空気、個性的な

名前のパン達が最高なのよね。ただ寂しいことに、このようなパン屋さんは年々姿を消しています。だから忘れないようにたくさんパンを食べます。…少し太ります。

さて、現在私はゴニオメーターから車のハンドルに持ち替えてやっております。違う場所で少し違うお仕事。新しい環境で戸惑いも大いにはありますが、日々自分にできる事を必死にやっています。ただ、どこにいても、パツパツユニフォームのシ

ルエットは変わりません。これもきっと多様性。いや、健康を害するような体系はきっと多様性ではないわね。摂生します。

色々と変化の激しい世の中ですが、新しい出会いやおいしい食べ物を見つける楽しさにワクワクもします。この仕事を続けることで、県学会のオーティークエストのように自分にとってドストライクな企画に出会えることもあります。大げさなことではなく、日々を頑張って生きよう。では今回はここで。

編集後記

皆様、十二月号は楽しんでいただきましたでしょうか？

早いもので、今年も残すところあと一ヶ月を切つてしまいました。年をとるにつれ、どんどん月日が経つのが早く感じるようになって来ました。親戚や友人の子供さんの年齢を聞くとそんなに月日は流れていたのかと毎回驚きます。子供の頃よく親戚のおばさんに言われていた「こないだ産まれたのに！」と私も言う年になってきたなと感しています。

大人になると時間が経つのが早く感じることをジャーネーの法則というそうです。大人になるにつれて新しい経験が減少したり、ルーチン化することでの時間の経過が早く感じられる現象だそうです。逆に、大人になつても、新しい経験を追及したり、時間の管理方法を見直したりすることが出来ます。

大人と子供で心理的な時間の長さの違いはあつても実際に流れる時間は平等です。『新たな経験』と『未来への期待』が今の時間を豊かにしてくれそうです。

もう令和も6年目になります。来年は新しい経験に挑戦してみるのはいかがでしょうか？

それでは皆様、良いお年をお迎えください。

HP



Facebook



Instagram



会員所属施設数 130施設 会員数 520名 (令和5年12月31日現在)

発行者 小林 央
 発行所 一般社団法人 島根県作業療法士会
 編集者 堀江利光 石田史穂
 デザイン 稗田朝海
 広報部 森脇繁登 石田史穂 板倉千尋 板倉慎也 岩根寛 稗田朝海 堀江利光 山根友美 山本豊和

事務局 一般社団法人 島根県作業療法士会 島根県大田市大田町吉永1428-3 大田市立病院作業療法室内